

# 街を行く

第78回 水戸 Mito

## 攘夷派お膝元、中国客で福来たる

水戸にやって参りました。テレビ時代劇でお馴染み水戸黄門(徳川光圀)ゆかりの地。JR水戸駅前では助さん格さんを引き連れた黄門さまの銅像が出迎えてくれます。

この街は歴史的に日本で一番や唯一無二とはいかないまでも、大手や上位の一角を占めています。有名なのは尾張、紀州と並ぶ徳川御三家「水戸徳川家」。世継ぎ確保で安定統治を図る使命を負った重要拠点でした。また、後楽園(岡山)と兼六園(金沢)と並ぶ三名園の1つで、江戸時代に造られた池泉回遊式庭園の「偕楽園」があります。「三大〇〇」はこれくらいにして、その他では歴史的建物の「弘道館」(第九代藩主の徳川斉昭が子弟教育を目的に設立した藩校)があります。徳川家との縁が深く、豊かな教養、文化を誇っていた水戸が、幕末には尊皇攘夷派の牙城として世を維新に導いたというのは、なんとも皮肉ですね。

さて、水戸の「売り物」はこうした輝ける過去だけでしょうか? 歴史と無関係の名物に「水戸納豆」がありますが街を盛り上げる力を感じません。衰退しているほかの街と同じかもしれない…半ばそういう目で街を眺めぶらついていたときです。なんとも面白い現代風建造物と出会いました。「水戸芸術館のタワー」です。チタンの三角形パネルを組み合わせ天に向かいらせん状に伸びる高さ100mの塔は奇想天外で、もう驚くしかありませんでした。

また、個人的な趣味の話で恐縮ですが、水戸にお洒落なミニカー専門店があり、長らく探していたお目当てをゲッ



▲水戸黄門像。助さん格さんを連れた諸国漫遊記は架空の話ですが、これをみたら事実のように感じます



▲水戸芸術館のタワー。もう驚くほかない

トできました(今では小生事務所の出窓に飾られています)。また駅前商業エリアにある「京成百貨店」はこのご時世でもすこぶる元気でした。デパート業態はどれも経営不振で需要が先細り。度重なるリストラでどうかこうにか生き残っているのが実態です。京成はどうだかは知りませんが、見た感じ堂々とメインストリートの賑わいを形成していました。今どき地方都市で生き残っているだけでも、自然と応援したくなりますよね(平日昼間でしたが買い物客も見かけました)。

街歩きを締めくくるべく、立ち寄りうとした地元郷土料理店の入口にはなんと「本日貸し切り」の札が。地元商工会の集まりでもあるのかなと、ふとみれば停車した観光バスから中国人観光

客がゾロゾロ。茨城空港は中国との直行便があり、その立寄客なのでしょう。彼らのニーズの理解は街が生き残るカギとなりそうです。解らなければ終わりです。ぜひとも「中国人観光客で福来たる」になって欲しいですね。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。